

あすなと高岡

第 13 号



▲第16回ソフトテニス日本リーグ
優勝 タカギセイコーチーム

▼第47回全国実業柔道団体対抗大会
優勝 塩谷建設チーム



第16回富山県駅伝競走大会
優勝 高岡市男子チーム (杉村選手)



役員研修会

とき 平成十年十二月
ところ 雨晴温泉

十二月十三日(日)雨晴温泉に於いて、定例の理事会と役員研修会が開催された。

〈理事会〉

(1)平成十年度の補正予算と市への

- ・要望事項として
- ・選手育成強化費、指導者養成確保事業費の増額
- ・スポーツ振興事業費、体協運営費の増額

・国体開催のための競技会場等の施設設備の整備の内容について審議する。

(2)平成十一年の主な事業内容について報告される。

(3)平成十一年度の市民体育大会の基準日は県体の開催が早くなるので七月四日に決定する。

(4)体協創立五十周年記念事業の収支決算について、総経費七百十二万九千六八円と報告される。

(5)体協極楽坂研修センターの平成九年度(平九・四一〇・三三)の事業、決算報告、並びに平成十年度の事業計画、予算について報告される。

以上が理事会での主な内容でした。

〈小・中・高校生の表彰〉

研修会の席上において、平成十年の全国大会等で上位入賞を果たした、小・中・高校生が表彰されました。

◆小学校

○定塚ファイアーズ
全国ミニバスケットボール大会
二位

○中川 朋美(木津小五年)

第十四回

全国小学校陸上競技交流大会
五年女子 一〇〇m走 三位

○林 このみ(国吉小六年)

第十一回

全国少年フェンシング大会
小学女子の部 六位

◆中学校

○竹内真季(芳野中三年)
第二十九回ジュニア
オリンピック陸上競技大会

女子C 走高飛び 三位

◆高等学校

○太田 伸介(高岡第一高三年)
第五十三回国民体育大会
レスリング競技

少年男子フリースタイル52kg

二位

講演「スポーツ雑感」

講師 高岡商業高等学校長

山本 登氏

槍投げの「日本一」を育てる。

自らの体験を通し、具体的な指導法で高校三冠王選手を育てた。

氏は、砺波高校時代から槍投げをはじめ、指導者なしでインターハイや国体で数回入賞した。

東京教育大学卒業後、母校の砺波高校に奉職し、自らの指導法を

あみだし、山本久男(現富山女子高校勤務)という日本代表選手を育てた。

指導法の一つとして、選手に大きな志を持たせ、「強い」ということと「勝つ」ということは異なるという理念のもとに指導し、また、指導観点を三つあげ、

- (1)槍の上向きの方向角度
- (2)円運動の中でまっすぐ投げる。
- (3)加速中の最高速で投げる。

練習の量としては二カ年で五〇〇〇本投げる。それに伴い「質と量の関数グラフ化」によって上達

度の確認。彼の記録は高校の時代67m24の国体新記録、日本選手権

四回出場の中で79m52の日本新記録を樹立している。

このような身近な指導法が参加者全員に深く感銘を与え、大変参考になった。

◆市民体育大会

スキー競技

二月七日(日)大山町極楽坂スキー場において、小学生から一般まで選手百十三名の参加により開催された。

今回は佐藤孝志市長も開会式に列席され、激励の言葉を頂き選手・役員一同感激したようです。

競技は雪の質・量とも恵まれ、絶好のコンディションの中で力強い競技が展開された。



すぽ一つあぐる

財団法人化以来、指導者の資質向上を目指しスポーツ医科学シンポジウムを毎年開催しています。

スポーツ指導者は、専門種目に関するあらゆる知識と経験に裏付けられたトレーニングと練習により、優れた選手を育てる役割があります。

そのためには、専門的知識とともに科学的常識を併せ持ち、自己の豊富な経験をもとに、氾濫するスポーツに関する情報を正しく理解し、有用であるかどうかを判断し、選手に分かりやすく伝える能力が要求されます。つまるところ、指導者は人間というものをと科学的に深く理解し、主観的情報（動や閃き）と客観的情報（心拍数や動作解析の利用）

のバランスを取りながら指導に当たることが必要だと思われま



加盟団体紹介 23

高岡市ライフル射撃協会

ライフル射撃協会の設立は、昭和48年9月に市内の空気銃所持者へ呼びかけ射撃の普及と組織の拡大を目指し、15名で発足した。初めての大会を富山県警察学校の射撃場を借用し日頃の腕を振るつた。同年11月には、渡辺辰男会長のもと、理事長（油井史郎）、理事（八箇章介、市沢隆）とし、高岡市体育協会に加盟する。昭和49年の第27回市体より高岡市民体育大会ライフル射撃競技大会を実施する。数名の若手会員の入会もあり、練習そして、県外大会への遠征にも熱が入り、県内大会の優勝はもとより、昭和50年〜55年までの北陸三県総合体員大会では幾多の優勝、そして大会新記録を次々と更新し、53年〜54年の中部東海北信越ブロック大会、中部日本選手権大会にそれぞれ優勝し、さらに51年第31回国民体育大会において、念願の個人優

勝をも成し、同年の県内スモールポアライフル選手権においても、1位〜3位を勝ち取り、高岡ライフル射撃協会の名をあげ全盛期であった。昭和45年4月には、県公安委員会より、油井氏、八箇が教習射撃指導員の指定を受け、ライフル銃、空気銃の安全な取扱、正しい射撃方法の指導に尽力し、又各種大会開催に必要な、本部公認、地方公認審判員資格もそれぞれ取得し、今日に至っています。



一方、射撃選手の底辺拡大を図る為、銃所持許可を必要とせず、安全で老若男女を問わず楽しめるチームライフル（光線）銃の導入を第38回市体より取り入れ努力し

ていますが、高岡市内に射場がなく、市民の目にふれる事もないため、学校の1クラス分のスペースがあればチームライフル5射座程度の射場が出来るので、設置が望まれます。

二〇〇〇年国体に向けての福光ライフル射撃場の整備工事も終了し、雪解けを待って、使用再開となり、又二〇〇〇年国体より初参加となる、バイアスロン競技にも進出する為、県バイアスロン連盟が設立され、競技規定講習会、射撃指導にと、県、市ライフル協会役員一同、国体成功に一丸となっている昨今です。



強化策着々と頑張る企業チーム ①

塩谷建設株式会社

女子柔道部

★設立と歩み

平成2年3月に塩谷建設創業35周年を記念して、会社敷地内に「正気館」柔道場が建設される。同時に全日本実業団入賞実績のある男子柔道部に加え、「二〇〇〇年とやま国体」を視野に入れ『女子柔道部』が創部された。

当時は、県の女子柔道のレベルは全国的にみても低く、競技人口も少ないことから、塩谷孝一会長、塩谷雄一社長は県内の女子柔道のレベルアップと底辺の拡大を図るため、女子柔道部に選手を集めると共に、今では恒例となっている筑波大学をはじめ、全日本クラスの選手を招へいし、強化練習会を毎年行い、女子柔道選手の育成に努めている。

成績においては、創部以来数々の全国大会で好成績を収めているが、中でも去る1月福岡市で行われた第16回福岡国際女子柔道選手権大会で、佐野奈津子選手（70kg級）が見事優勝し、日本代表とし

’98日本リーグ初制覇
タカギセイコー

ソフトテニスチーム フェアリース

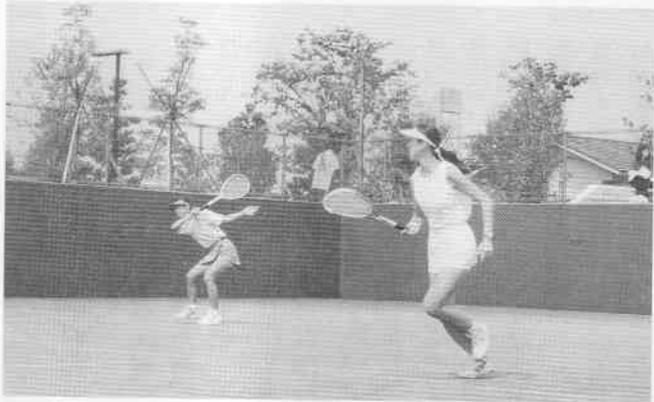
★設立について

創業50周年を経過し、新たに創業一〇〇年に向けスタートした当時、富山県知事が「日本一のスポーツ立県づくり」を提唱された。当社も社員の健康増進、意識の高揚を図る意味で、スポーツチームの設立を望んでいた。

高岡市がたまたま二〇〇〇年国体のソフトテニスの会場に決定したことや、会社やソフトテニス関係者の尽力により、県内外から実績のある多彩な選手を揃えることが出来、平成5年3月3日に創部された。

★「フェアリース」について

ソフトテニスをもっとメジャーなものにしたい。全国に先駆け、



★その後の活躍

昨年10月より、吉本貞夫新監督

将来を見据えた新しい考えでチームづくりをして、富山県をアピールしたいということで、全国では初めてマスコットネーム「フェアリース」と名付けられた。

のもと、卓越した技術と強力なりーダーシップの裏地主将と、プレーニングマネージャー的役割を果たす向選手を含む6名の少数精鋭である。

昨年の日本リーグでは、悲願の

初制覇を遂げた。戦力的には、昨年全日本ベスト8の大将チーム沼崎・裏地組を始め、全日本社会人3位の副将チーム森下・向組、そして伸び盛りの玉泉・浦東組の3ペアであり、このことはこれからの自信につながるものと思われる。

冬期間は、週3日勤務時間後の筋肉トレーニングを中心に、幾日3時間程度、練習に励んでいる。

今春より、昨年度のインターハイチャンピオンペア以下3名が入社し、9名でスタートするが、強化合宿、強化遠征を年内に5回程度、強化練習15回程度実施し、国体優勝を目標に精進されており大変強い限りだ。



第16回福岡国際女子柔道大会70kg級優勝 佐野奈津子選手

てフランス国際柔道大会に出場することが決定している。

★これからの取り組み

関東や関西方面へ強化合宿などを行い、実力の向上に努め、さらに全日本選手権大会で活躍した2名の加入により、選手層の強化を図り、佐野選手を中心に全日本実業団の優勝と、二〇〇〇年とやま国体の優勝を目指している。

国体の思い出

第13回夏季大会に参加して

高岡市水泳協会

副会長 金谷 雅弘

昭和三十三年に大学を卒業し

て、日本水泳連盟の勸奨で、高岡市にある北陸軽金属工業(株)(現新日軽)に入社しました。

同じ年富山県には、関係者の努力により、古賀学(自由形・早大) 田中貢(自由形・日体大) 長谷景治(背泳・早大) 塚本尋



務(平泳・中大) 佐藤峯子(背泳・天理大) 木村安晴(飛込・慶大) 宮本まさみ(飛込・天理大) など中央の大学で活躍した選手が本県の企業や教員に就職することになり、国体上位入賞を目指すこととなりました。

夏季国体のメイン会場となった県宮高岡プールは50mコースと飛込プールを備えた当時の地方の水泳施設としては大変泳ぎやすく立派なプールでした。

昭和二十年から三十年にかけては日本の水泳の競技レベルは米国と共に世界のトップクラスであり、国民の競泳に対する人気は高く大きな競泳大会には多くの観客が集まり観客席はいつも満員となっていたようです。高岡市で開かれる国体にはどの程度観客が入るの不安な面もありましたが世界的な選手の参加もあって、国体が始まってみると連日観客席は超満員となり、県民の声援と期待の大きさが選手一人一人に伝わり県代表選手団の士気を高めたようです。選手一人として大変緊張したことを覚えております。

当時は今のような室内プールは無く練習は全て屋外プールで行っており、夏季シーズンの短い北陸地方では水泳の練習は充分にできず優秀な選手がなかなか育たないようでした。このためか高校男子、女子の部では入賞できなかったものの競泳実業団の部では二〇〇mリレー(金谷・長谷・前馬・古賀)の優勝を始め5種目で入賞し総合2位になり、本県が水泳総合6位入賞の原動力となりました。

今思えば富山県で国体の水泳を行うことができるか心配であったようですが、大会運営もうまく行き、成績の結果も上位入賞が果たされ、成功裏に終わりました。

二巡目の二〇〇〇年とやま国体もいよいよ来年となり、成年の部の補強もさることながら、今回は少年A・Bの部(高校生と中学三年生)の強化とレベルアップが順調に進んで相当数の入賞が期待され、総合結果は前回の国体より上位に行くものと期待しています。

※ ○ ○ ○ ○ ※
紹介

「二〇〇〇年とやま国体」
をめぐりて

高岡市立伏木中学校

三年 川岸 愛子



ミニバス時代から古府クラブの中心選手として二度の全国大会を果たした。

伏木中でも県の有力選手として注目され、平成九、十年度の二年連続県中学選手権優勝に大きく貢献した。また、九年度の県オールスターチームの主将として全国大会でも活躍した。

これまで着実にバスケットボール選手として成長を遂げてきたのも多くの経験と彼女の努力もさることながら、二、三年に一人出ることが出来ないかという素質ある選手である。

今後、進学後は更なる努力を積み重ね、二〇〇〇年富山国体の少年女子の主力として活躍できる選手に成長することを期待したい。

加盟団体紹介 24

高岡市アーチェリー協会

高岡市アーチェリー協会は昭和四十七年に民営の二上アーチェリーレンジが開設されたのを機に組織され、昭和五十一年の十二月に高岡市体育協会に加盟し、城光寺山麓や二上アーチェリーレンジにて活動をしていきます。

アーチェリー競技は90m・70m・50m・30mの各距離の的をそれぞれ三十六射撃ち(合計百四十四射)その合計点数で一次選考を行い、二次選考では70mで十二射の競射を以て勝敗を決定します。

結成当初の協会活動は凄まじいものがありました。昭和五十一年には藤本勝己選手がモントリオールオリンピック候補選手となり、翌年には野村武選手がナショナルチーム入りを果たしています。

平成元年には、二〇〇〇年国体を目指して高岡龍谷高校に

アーチェリークラブが設立されました。以後毎週、高校生・社会人を中心に指導を行っています。昨年の神奈川国体では藤本勝己選手が率いる成年男子が団体競技部門で八位入賞に入るなど、着実に実力をつけています。一方、指導審判員の養成にも力を注ぎ石川国体や昨年の熊本国体リハール大会にも一級審判員を派遣しています。

アーチェリーは他のスポーツには類を見ない健常者・障害者を問わずに実力さえあれば世界大会に出場出来る真摯なスポーツです。西暦二〇〇〇年の第五十五回国



民大会「二〇〇〇年とやま国体」と第三十六回全国身体障害者スポーツ大会「きらりんびつく富山」が開催されます。

当協会は「二〇〇〇年国体」を機会に健常者・障害者が共に手を携えながらこの二つの大会を成功させ、二十一世紀につながる「心に残るスポーツ」を残すように取り組んで行きたいと考えています。

練習射場もままならないマイナー競技ではありますが、皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

《スポーツドクター・アドバイス》

ひざの靭帯(じんたい)のけがについて

高岡市民病院整形外科 山田 均

ひざの関節は内側と外側にある側副靭帯とひざの中心部にあり、後から前に向かう前十字靭帯、前から後に向かう後十字靭帯の4本の主要な靭帯により前後左右の安定性を保っています(図1、2)。スポーツ中に人ともつれて転倒したり、ジャンプの着地時にねじるなどして、これらの靭帯を痛めることがよくあります。ひざのねんざといわれているものの中にも、靭帯を痛めている場合が多くみられます。けがの程度により重症度は3段階に分けられ、それに伴い治療方法も変わってきます。

1度(軽症) : 痛みはあるが、靭帯にゆるみのないもの
2度(中等症) : 靭帯が少しのびて、ゆるんでしまったもの

3度(重症) : 靭帯が完全にきれてしまったもの

1度の場合は簡単なサポーター程度の固定でもよいのですが、2度や3度の場合には一定期間ギプスでひざを固定するとか、プラスチック製のしっかりした装具をつけるなどの治療が必要となりますし、場合によっては手術治療も必要となります。これらの治療は

けがをしてから、できるだけ早く行わなければ意味がありません。もしも放置してしまった場合には靭帯がゆるんだり、きれたままになってしまうため、将来にわたりひざのぐらつきが残ってしまいます。その結果、もともと正常であった半月板や骨の表面の軟骨にも異常がでてきてしまいます。これら4本の靭帯のけがのうち、とくに見過ごされやすいのが、ひざの中を走る前十字靭帯の損傷です。スキー、バスケットボール、バレーボールなどでの受傷が多く、もともと体のやわらかい人、筋力の弱い女性に受傷頻度が高いようです。けがをした直後はひざに血液がたまり痛みがありますが、血液を抜いてしまうと意外に痛みがとれてしまい、軽スポーツに復帰できることが多いため、放置されてしまうケースが多くみられます。MRIや関節鏡という精密検査などを行わないと確定診断ができないため、一層この傾向があるようです。前十字靭帯のけがの場合ほとんどが3度の損傷で手術治療が必要となりますので、ひざが極度にはれたり、血液がたまるような状態があったならば早い時期に精密検査をうけるべきでしょう。唯一の予防手段としては、極

端にひざを内側に入れる動作をしないことです。すなわち足先を固定したままひざを内側に入れるのではなく、つま先を軸にひざと足先が同じ向きになるように動かすことが大切です。日頃からこのイメージをもって練習してみてください。ひざのどの靭帯のけがであろうと、最初にいいかげんに処理してしまいますと選手生命に影響してしまふことでもありますので十分心して対処してください。

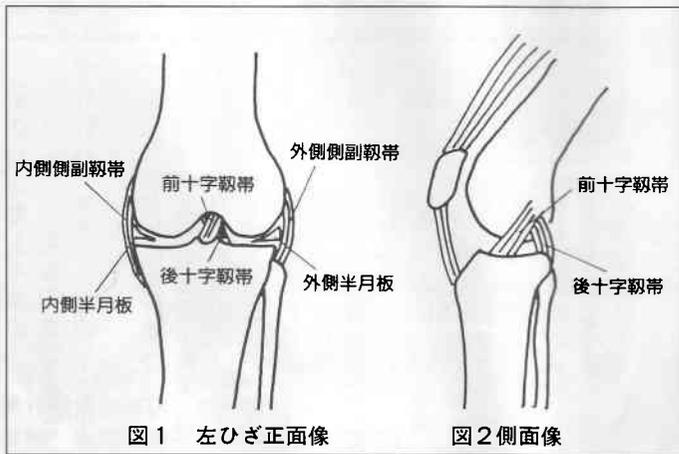


図1 左ひざ正面像

図2 側面像

スポーツ人脈(1)

高岡市卓球協会

吉田善盛氏の

卓球と青春

今日、高岡市の卓球界において

吉田善盛氏の名は不動である。

吉田氏の卓球歴は、昭和14年1月、卓球の名門名電校のメンバーとして、第8回全国中等学校対抗卓球大会（東郷優勝旗争奪戦）に出場し、見事優勝する。

同年3月、卒業と同時に帰郷するが、当時、適当な練習場がなく、木谷 繁氏（北陸選手権保持者）の紹介で高岡高等商業学校において練習を重ねる場を確保する。

同年5月14日、木谷氏の推薦で第13回北陸卓球選手権大会に初出場するが、参加者120名の強豪をつぎつぎと破り、帰郷しての初優勝を遂げる。

同年6月に高岡電灯株式会社（現北陸電力）に入社。勤務の傍

ら市内の各中等学校や富山の卓球場を巡り、優秀な卓球選手を育成する。中でも旧制富山高校のチームは、昭和15年7月の全国高校卓球大会（京都帝大で開催）に於いて団体・個人優勝に導く。

また本人は、昭和15年紀元二千六百年奉祝第11回明治神宮国民体育大会に出場する。

昭和17年2月召集を受け、中国・佛印・タイ・ビルマと転戦、21年5月23日に復員する。

21年10月6日、第1回国民体育

大会富山県予選（於 立山重工業）で参加者200名であったが、優勝し、国体代表となる。

22年5月25日、不二越工業高校を会場として行われた、第1回裏日本卓球選手権で優勝する。

当時は、卓球の練習する会場がなく、市内の小学校へ北陸電力の大八車を借りて卓球台を運んで練習したり、国体には、米を持参して京都まで10時間の汽車に揺られたりする苦労が多々あった。

吉田氏と共に、高岡市卓球界の育ての親である木谷政雄氏と、全国規模の数々の卓球大会を、本県や本市での開催を誘致しており、中でも、昭和27年に英国の世界1位のリーチ・パークマン選手を招待しての大会や、翌28年には日本対インドの卓球大会を市民会館で開催することに尽力された。

吉田氏は、昭和11年から平成11年現在の63有余年にわたり、選手として、また指導者として卓球の指導と地域の発展に大いに尽くされると共に、現在も地域のお世話や小・中学生を対象に、卓球の基本を指導されている。



平成11年度上半期の

主な行事(予定)

- 2月17日 スポーツ医科シンポジウム
- 3月19日 加盟団体育理事長会
- 3月26日 常務理事会・理事会
- 4月25日 第45回前田杯ソフトテニス大会(中学)
- 4月29日 第45回前田杯バレーボール大会(中学)
- 5月8日 体育功労者表彰式・評議員会
- 7月4日 第52回市民体育大会(基準日)
- 7月31日～8月2日 県民体育大会
- 9月23日 第45回前田杯バレーボール大会(一般)
- 10月10日 第45回前田杯ソフトテニス大会(一般)

編集◆後◆記

国体開催を明年に控え、市民の国体への関心も高まっております。今回からは、特集として、国体に向けて頑張っている本市関係の企業チームを、連載して紹介することにしませんでした。

これからは、国体に関する情報や話題を記載したいと考えております。また、皆さんのご意見やご提案がありましたら、どしどし事務局までお寄せください。